

おこっぺ



町の花ハマナス



町の木ナナカマド

# 議会だより

第150号

平成29年11月15日

発行／☎098-1692 紋別郡興部町旭町 興部町議会

TEL (0158) 82-2135  
FAX (0158) 82-2990

編集／議会広報特別委員会



春の海の会

**第3回町議会定例会** ..... P2～4

**町政ここが聞きたい!!** ..... P5～7

**所管事務調査報告総務社会常任委員会** ..... P7

**所管事務調査報告産業建設常任委員会・遠紋地区市町村議会議員研修会** ... P8

**道内行政視察報告・議員活動報告・編集後記** ..... P9～10

# 平成29年 第3回 町議会定例会のあらまし

平成29年第3回定例会は、9月13日(水)開会され、町長の行政報告、議案15件、認定1件、同意2件、報告2件、選挙1件、発議3件、計24案件が審議されました。

## 町長行政報告

### 平成29年度防災訓練

興部町では、毎年9月1日を基準日として住民避難・災害対応に係る訓練を実施しているが、平成29年度については、陸上自衛隊遠軽及び旭川駐屯地、興部警察署の参加協力をいただき、興部町、興部消防団との合同訓練として、10月5日(木)、福祉保健総合センター裏の旧公営住宅跡地を主な会場として実施を予定。訓練内容は、大雨大規模災害による住民の避難、被災者の救援、被災車両からの救出などの訓練、また、遠軽自衛隊が所有している災害に対応する車両・救助用資機材などの展示実演も会場内で予定しており、ヘリコプター等を使用する大規模な訓練を見る貴重な機会です。

### 保育所延長保育事業の拡大

保護者の就労等により通常の保育時間内では子どもへの迎えが困難な世帯を対象に、月単位での利用に限り、最大で午後5時45分までの延長保育を実施しますが、一日単位での利用を希望する声も多く聞かれることから、9月1日より緊急等やむを得ない事情が発生した場合に限り、当日申請であつても、一日単位で延長保育が利用できるような事業の拡大を行った。今後も、保護者の要望を聞きながら子育てサービスの充実・環境整備を図っていきます。

### 汚水処理施設共同整備事業(MICS事業)

雄武町において進めている「汚水処理施設共同整備事業」は、北海道との協議が整い「雄武町公共下水道事業計画変更」が8月4日に同意されたことから、当初、平成30

年度に予定していた「施設基本設計委託業務」を前倒して実施したい旨、雄武町より要請がありましたので、今後の事業費等の内容が確定次第、補正予算にて対応するとともに、他町村との連携を図りながら事業の推進に努めます。

### 国保病院の診療医師の体制

外科の常勤医師として、松本光之医師が10月1日より勤務することになりました。松本医師は、長崎県五島市の出身で、岩手医科大学医学科を卒業後、長崎大学附属病院第2外科に入局され、派遣医師として九州・沖縄の各病院で勤務医として勤め、平成11年に、長崎県長与町にて松本外科医院を開業し、胃腸科・肛門科・呼吸器科・リハビリテーション科など幅広い診療領域に携わり、さらには地元長与町介護審査委員、長与町立高田小学校医も歴任されてきました。当院での松本医師の業務について

## 議会の動き

平成29年8月9日以降	興部町暴力追放運動推進協議会総会	8月9日
魚霊祭・海上遭難者供養及び灯笼流し	14日	
遠紋地区市町村議会議員ハークゴルフ大会	26日	
議会全員協議会	28日	
オホーツク圏活性化期成会第5回石北本線部会	29日	
宗谷本線活性化推進フォーラム	30日	
紋別地区消防組合議会臨時会	9月4日	
議会運営委員会第3回町議会定例会(1日目)	8日	
決算審査特別委員会(1日目)	13日	
議会広報特別委員会	//	
興部町敬老会	14日	
議会運営委員会	//	
決算審査特別委員会	//	

は、外科外来のほか入院患者管理、当直、健康診断及び救急の業務を担当して頂きます。

### 新興部中学校校舎 建設工事の進捗状況

4月下旬に本体建物の1階基礎部分のコンクリート打設がされ、順次1階及び2階の柱、壁、天井部へと進み、8月中旬に終了し、現在は型枠と支柱の撤去が始まり、建物内部の様子が分かるようになってきた。9月中旬には本体建物の型枠等が撤去され外壁及び内装工事のほか、電気設備、機械設備工事に着手する予定です。また、興部・沙留両中学校の統合に向けては、新中学校校舎整備等検討委員会の各部会において学校運営・教育計画及び生徒指導・生徒会部活動等に関する事項について検討を進めています。新たな興部中学校の校章も決まるとともに、8月2日には、興部町出身の音楽関係者、澤田



新興部中学校建設工事

一範さんと橋田亮次さんから校歌の贈呈を受けたところです。

### 農作物の作況

本年の牧草は、1番牧草で、5月の干ばつの影響により、一部の草種は平年より生育不良でしたが、全体では平年並みとなり、2番牧草は、7月の高温と適度な降雨により平年より草丈が高く、収穫も10日ほど早く進んでいる。飼料用トウモロコシは、8月の低温による生育不良が懸念されている。

### 生乳生産の状況

8月31日現在、3万7千

348tで、計画対比99・8%、前年対比97・0%となっている。

### 林業関係の状況

造林地の下刈は事業を完了し、間伐・植栽工事は宇津地区保安林の皆伐及び除伐工事、朝日地区の植栽工事は発注済みで、50%の進捗状況となっており、今後、富丘地区の皆伐工事の発注を予定している。

### 漁業生産の状況

8月末現在、全体水揚量は9千120tで、前年同期比2千762tの増となっている。主な漁獲量につきましては、毛ガニ漁では計画対比100%の102tで、漁獲許容量を全量消化し、7月21日に漁を終えている。ホタテ漁は計画対比102%の8千148t、前年同期比1千675tの増です。マス定置網漁は7月21日に水揚げが開始され、前年同期比232t減の43t、サケ定置網漁は

9月5日より水揚げが開始されており、漁獲量及び価格ともに、今後の好漁を期待します。

### 建設工事の発注状況

9月1日現在、土木・水道工事で87%、建築工事89%となっており、残余の工事についても随時発注を予定している。

### 一般会計補正予算 (第2号)

補正額は4千942万円を追加し、総額51億3千961万1千円とし、原案どおり可決した。

### 歳出の主なもの

- 多面的機能支払交付金 223万円増
- 興部中学校建築主体工事 請負費 2千640万円増
- 興部中学校機械設備工事 請負費 572万円増
- 興部中学校電気設備工事 請負費 408万円増

15日	員会(2日目)	決算審査特別委員会(3日目)	第3回町議会定例会(3日目)	議会全員協議会	平成29年度才ホーツク西部地区PTA連合会研究大会	第2回広域紋別病院企業団議定例会	沙留中学校閉校式	遠紋地区町村議会事務局長事務研修会	乳牛感謝祭並びに牛馬祭	おこっぺ牛乳の里マラソン大会	合同常任委員会	道内行政視察	興部町防災訓練	札幌おこっぺ故里会総会・懇親会	産業建設常任委員会	道外行政視察	
24日	沙留中学校閉校式	遠紋地区町村議会事務局長事務研修会	乳牛感謝祭並びに牛馬祭	おこっぺ牛乳の里マラソン大会	合同常任委員会	道内行政視察	興部町防災訓練	札幌おこっぺ故里会総会・懇親会	産業建設常任委員会	道外行政視察	10月1日	10月1日	10月1日	10月1日	10月1日	10月1日	10月1日

### 特別会計補正予算

特別会計2会計で補正予算が提案され、原案どおり可決した。

○興部町国民健康保険事業特別会計補正予算 (第1号)

補正額は85万円を追加し、総額6億7千28万円とした。

補正内容は、平成28年度分療養給付費等負担金清算による返還金の増額等。

○興部町介護保険事業特別会計補正予算 (第1号)

補正額は、137万円を追加し、総額2億9千260万円とした。

補正内容は、平成28年度介護給付費清算による還付金の増額及び介護予防住宅改修費の増額等。

### 改正された条例

○興部町公営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例

### 教育委員会教育長の任命

新教育委員会制度に基づく教育長として、畑山研二氏を任命同意した。

### 教育委員会教育委員の任命

任期満了に伴い、菅原博氏を教育委員に任命同意した。

### その他議決された案件

○北海道市町村職員退職手当組合規約の一部変更

○北海道市町村総合事務組合規約の一部変更

○北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の一部変更

○財産の取得

①学校特別教室特殊備品

取得価格777万6千円

契約の相手方

株式会社メンティス 興部出張所

②学校事務用管理備品

取得価格874万8千円

契約の相手方

みやま家具店

③学校普通教室等備品

取得価格842万4千円

契約の相手方

みやま家具店

④学校特別教室備品

取得価格734万4千円

契約の相手方

有限会社おこっぺスポーツ

⑤学校教育情報通信機器備品

取得価格

856万4千400円

契約の相手方

株式会社ソーゴー

○契約の変更

①興部中学校建築主体工事

契約金額

7億6千453万2千円

を7億9千397万6千400円に変更する。

②興部中学校機械設備工事

契約金額

1億4千796万円を1億5千367万6千440円に変更する。

③興部中学校電気設備工事

契約金額

1億2千96万円を1億2千503万8千80円に変更する。

○興部町選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

更する。

### 興部町選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

任期満了となる同委員・補充員の選挙を行い、次の方々が当選されました。

○選挙管理委員

・本町 神田 泰彦氏

・仲町 橋本 恵氏

・仲町 田中 啓一氏

・幸町 細川 明氏

○補充員

・沙留緑町 對馬 仁氏

・栄町 山崎 重氏

・元町 川原田正志氏

・旭町 中村 周平氏

(尚、補充員は、選挙管理委員会が欠員になった場合、記載の順に補充されます。)

### 報告された案件

○平成28年度普通会計等財政健全化判断比率及び公営企業会計資金不足比率の報告

功労者表彰式

議会広報特別委員会

○平成28年度興部町一般会計予算継続費精算報告書の報告

興部中学校閉校式

16月17日

18月19日

18月18日

25月25日

27月27日

31月31日

11月1日

2日

3日

7日

12日

11月1日

北海道町村議会事務局長研究会

遠紋地区市町村議会事務局長研修会

おこっぺ町観光協会臨時総会

議会広報特別委員会

オホーツク圏活性化期成会石北本線部会シンポジウム「JRR石北本線の維持・存続に向けて」

オホーツク町村議会議長会臨時総会

オホーツク圏活性化期成会秋季要望活動

地域の暮らしと未来のためのみちづくりフォーラム

功労者表彰式

議会広報特別委員会

興部中学校閉校式

# 町政ここが聞きたい!!

## 問

車を運転できない高齢者の交通手段の確保について 佐藤吉春議員 地域公共交通会議で問題を協議し 対応を進めたい

裕 一寿町長



佐藤議員

高齢者ドライバーの重大事故が相次ぐ中、認知症機能検査を強化する改正道交法が施行され、半年間で道内の75歳以上の免許の自主返納者は、昨年同時期の2倍近い4千430人に上っていると新聞にとりあげられております。興部町でも「免許を返納したいが買物にも病院にも行けなくなる」と苦悩されている方がおります。興部町も例外なく益々高齢者が増える中で交通事故対策を含めた免許自主返納者の促進

並びに、交通手段の無い高齢者の救済を目的とした交通手段の確保を町は考えているのか。

裕町長

都会では様々な

対応が為されており、65歳から返納を呼びかける町もあり支援もしていると聞きます。しかし「興部町でそれを進めて、生活が出来るだろうか」というところで、代替するものの手段が不足している状況であり、現在検討して何らかの対応を考えているところです。

佐藤議員

町には民間タクシー会社が運行されており

ますが使い勝手が悪く、使い勝手が悪いから利用者も減ると言う負のスパイラルが働いております。しかしその様な民間タクシー会社でさえ廃業し撤退してしまつたら、交通手段のない弱者の買物や通院はどの様になるのか考えただけでもこの町の将来はありません。そこで折角存在している民間タクシー会社を奮起させて、興部町の公共交通

機関に官民上げて育て上げていく事が交通弱者のためになり、公共の福祉のためになる。そのためには一定程度の支援が必要だと思いがどの様に考えているか。

裕町長

来年度から新しい介護保険計画がスタート

するための関係で、高齢者の方にアンケートを頂き、その中で最も多い要望がタクシーに関するものです。この事については民間のタクシー会社とも協議しているところですが、来年の中学校統廃合でバス路線の変更も検討し業者へ説明する中で、タクシー会社も視野に入れなくてはならない。現状では、介護の必要な方や障害を持った方のタクシー助成券の使用割合も落ちて、この点についての問題も協議しながら進めたいと思っております。

佐藤議員

過疎地域の中で

の民間企業の努力は先が見えていくわけで、やはり公共の交通機関として育て上

げなければならない。一つの事例として滝上町があります。この事例のように、直接支援、或いは間接支援は最低限必要だと思えます。北海道環境生活部交通安全グループが平成29年4月現在で、全道の「市町村別高齢運転者による交通事故の防止に資する取組（移動支援施策）」を発表しネットに載せ、興部町の施策も載っております。2、3の事例を紹介しますと、月形町ではタクシー補助券1万円分補助で昨年実績785人。占冠村は、村営バス乗車運賃の補助で昨年実績は、延べ2千434人。別海町は70歳以上でハイヤー券1万2千円補助で昨年実績は211人。勿論、各市町村の懐事情もあると思いますが、この高齢者の移動手段対策、交通弱者の施策の作成を切に願うわけですが町長の考えは。

裕町長

町には地域公共交通の会議があり、路線バスやスクールバス等の運行

について検討し、今回の路線変更についても進めております。その中で、市街地の中心に近い方、遠い方のフォローについて、バス路線の改正も含めて、ご指摘の民間の会社もありますので、さらに協議を進め、興部町の対応を進めたいと考えております。

**佐藤議員**

中学校の統廃合によるバス路線の変更の話はスクールバスの話です。

先ほど私は、「全道の市町村別高齢者（移動支援施策）」の中で興部町の施策も紹介されていると云いました。一つは「スクールバスの混乗」で、内容はスクールバスに住民が混乗出来る。もう一つは「住民スクールバス」で路線バスの廃止した路線で一般住民等が便乗出来る事です。しかしこの発表には実績人数は不明となっている。町長はこの施策はご存知でしたか。

**裕町長**

当然知っております。

**佐藤議員**

この施策は興部町の住民が知らなければ、単に「絵に描いた餅」であつてなんの意味もないわけです。それと議会は今年4月、議会報告会を開きその中の質問に、「中学校の統廃合によつてスクールバスが興部・沙留間で運行されますが、沙留地区で少年団活動する児童・生徒の興部までの移動手段として利用できませんか」この答えに「スクールバスの平日運行は通学する児童・生徒の移動手段として運行することから少年団活動との利用は想定していませんが、今後は検討していきます」これは行政の担当部署の答だと思ひますが、先ほどの興部町の施策と矛盾を感じるわけですが、質問通告書を出してからの資料調査での事なので、回答は後日に回し一般質問を終わります。

**裕町長**

議員からお話があつた道から発表しているデータですが、町では人数の把握は出来ております。

ただ部活動について沙留地域からの要望を、統合に関して不便の無いよう充分に

やれるとお答えしたいと思います。

**問**

「小規模企業振興条例」で創業・起業・転業・移住促進を!!

**答**

担い手をどう作っていくか考えていきたい

前田義雄議員

裕 一寿町長



**前田議員**

我国の企業の99%を占める中小企業は421万社。うち9割を占める小規模企業は366万社、雇用の4分の1を占めている。国は26年に、道は28年3月に「小規模企業振興」に関する法・条例を制定している。

我町にも商工業に対する支援の条例・要綱が「興部町

企業振興条例」等各種補助金交付要綱があるが、例えばイベント事業補助金であれば、補助率2分の1、3年間、上限50万円という条件がある。残り2分の1は主催者が出さなければならず、財源のある団体等が実施する場合はいいが、任意の団体やバックの支援がない場合は大変でないか。

国・道が小規模零細な企業に対する施策を展開するのに合わせ、我町も条例制定を見直しする考えは。

**裕町長**

先日、管内の商工会長と首長の懇談会があり講師の方より「中小企業

といつても何百人の人を抱え、何千億、何百億の生産をあげる企業はあるが、今回の法整備は製造・建設・運輸業では20人以下、商業・サービス業では5人以下の小規模企業に光をあてる。考えで法整備をした。町、事業者、商工会、金融機関の役割を明確にし、協力関係を作り5年間の計画を出せ」ということであるが、各町とも町の産業振興条例・要綱があつたりして全道でも6市町村の制定に留まっている。今後、商工会や他の団体と協議したい。

**前田議員**

新規の創作的な事業、継続事業なら新たな事業展開をしていく、他の地域から移住され新たな事業を興す等の意志のある方を支援するような基本条例なり振興条例を整理し「発信」する事が大事ではないか。

**裕町長**

漁業・農業という大きな産業があるが

合理化、機械化され町外を相手にする産業に変貌してきているが産業全体で担い手をどう作っていくかという支援も必要ではないかという対応を検討している。

**前田議員**

今年度より商工会から観光協会が分離・独立。商工会としても「小規模企業振興条例」の制定を機に今迄以上に取り組みを強化し、自らの地位を向上させるつもりでしようから、商工会にやらせるためにも条例に基づいて組織としての位置付けされてはどうか。

**碓町長**

商工会の場合、国や道からの直接事業を引く張る事もできるし、町を介さなくても出来る独立した組織でもあるので、条例を作った方がいいかどうか考えていきたい。商工会も含め他の産業も合わせた中で考えていきたい。今後、商工会の会長・事務局、更に事業者の皆さんと話をさせていただいて検討していきたい。

# 所管事務調査報告 総務社会常任委員会

興部町においては、興部国保病院療養病床のあり方が問われており、18床中8、9床の利用状況となっておりです。国は2018年度、医療法、介護保険法の改正により医療費削減のため療養病床の減少又は介護施設への転換を促進させようとしています。

総務社会常任委員会は7月21日、平成24年4月より療養病床を老人保健施設へ転換した雄武町国保病院及び雄武町立介護老人保健施設ハマナスを視察した。

雄武国保病院は平成15年4月より新築移転し一般病床25床、療養病床26床計51床で診療開始しています。療養病床の稼働率は50%ほどでした。病床区分は、経営コンサルに業務委託し、療養病床を介護老人保健施設へ転換する方針に決定。

平成24年3月療養病床を全床定員26名の介護療養型老健施設として開設した。

介護療養型老健の施設基準（重症度）としては、重症者に該当する入所者割合が20%以上であること、新規入所者のうち医療機関からの入所者の割合と自宅等からの入所者の割合の差が35%以上であることなどを維持することが大事で基準に達しなければ申請をしない介護費削減となる。老人保健施設の利用状況は初年度の平成24年度は68・3%であったが、平成28年度で86・7%となっている。

老健施設併設に伴う影響は、一般病床入院患者のうち老健入所可能な要介護高齢者を老健へ入所させ稼働率は改善されたが一般病床稼働率が低下することとなった。特養入所基準が要介

護度3以上となったため老健入所者の要介護度は低い人が多くなった。一般病床と老健施設が同一フロアにあるため共有スペースの自由使用が難しくなった（レクリエーション等）。

○医療保険制度と介護保険制度の両方に対応することへの課題

- ・診療報酬と介護報酬の2種類を習得する事と、2年毎の報酬改定に対応する必要がある。
- ・事務管理においては、管理、各種報告等経営的な事務量の増加、報酬請求事務体制と合わせて事務部門の充実強化が必要となる。

- ・医師についても院長一人で一般病床と老健の対応をしているが、常勤医の負担緩和、収益改善のため内科常勤医の確保が極めて優先的課題となっている。

- ・町民の療養病床対象患者には対応可能となる医療機関を紹介している。ほとん

とんどが紋別市内へ。療養病床に対する交付税26床分は5年間あったが、今年3月で終了となり、病床ベッドへの交付税が今年より入らなくなった（1床あたり70万円）。

療養病床と老健施設への転換する手続き、事務量の煩雑さ、運営管理上の複雑さ、基準の遵守、住民への説明と理解など課題は多くあるように思う。興部町においては十分な検討が必要である。

（記：総務社会常任委員会

委員長 小泉 優子）



## 所管事務調査報告

# 産業建設常任委員会

7月21日の産業建設常任委員会で、紋別バイオマス発電事業の稼動状況や施設を視察しました。紋別バイオマス発電所は住友共同電力株式会社と住友林業株式会社と住友共同電力株式会社が合併で設立した会社で、昨年12月1日より営業運転を開始しています。発電規模は5万kwで年間販売電力量は3億kwh/年です。これは一般家庭約6万5千世帯の年間使用量に相当します。木質資源をはじめとする生物資源を利用する火



力発電です。燃料の木質チップについては、関連会社であるオホーツクバイオエナジー株式会社より供給されます。その他に石炭、PKS（ヤシの実の種の殻）

## 遠紋地区市町村議会議員研修会

7月31日(月)遠軽町ホテルサンシャインに於いて、北海道教育庁オホーツク教育局長松本邦由を講師にお招きし、平成29年度遠紋地区市町村議会議員研修会が開催され、「管内における教育行政の今日的課題について」と題し講演をいただきました。数十年前から、国又は都道府県単位で行政の最先機関の統廃合及び市町村合併がなされてきたが、近

を燃料とし、木質チップは5割で石炭3割、PKSは2割の割合で使用されています。今ままであまり利用されなかった木の枝や根に近い部分など木材を有効利用することにより、木材の付加価値を高めることができました。興部町に於いても昨年より家畜排せつ物などを利用した興部北興バイオガ

スプラントが本格稼動しています。他にも太陽光や風力、地熱など様々な形で取り組みがなされています。原発や化石燃料に変わり安全でクリーンな、その地域の特色を生かした再生可能エネルギーの更なる普及がまたれます。

（記：産業建設常任委員会 副委員長 藤渡 昭博）

年、全国的な少子化が進む中で「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」が定められ、その第4条に「都道府県は高等学校の教育の普及、及び規模の適正化に努めなければならない」とした上で、魅力のある学校づくりや、高校存続に向けた対策が求められている。しかしその中で、「高校の小規模化」をすることによつ

て生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導の充実がある反面、部活の停滞など良い面と悪い面がある。それらを踏まえて、再編による課題を洗い出し、生徒への多様な学習ニーズへの対応を考え、新しいタイプの高校づくりを推進することが大事である。たとえば、将来の職業選択により教科を選択出来るなど、現在北海道にそのタイプの高校が10

数例あり、その効果が出ているらしい。そして、遠紋地区においても「主体的に地域で検討し、高校の配置計画を出して欲しい」とのお言葉で最後を結ばれたが、「高校存続に向けた地域は、学力調査の数字も踏まえ（数字だけが全てではないが）、学校、家庭との連携を強化し、また、教育行政においては、情報の共有化を徹底し、今一番必要な事は何かを常に考えていく心構えが必要である」とのお話であった。

（記：広報特別委員会 委員 佐藤 吉春）



# 道内行政視察報告

## 千歳市防災学習交流センター 「そなえーる」行政視察報告

10月3日、千歳市防災学習交流センター「そなえーる」において、千歳市並びに千歳市議会の概要説明を受けた後に、防災に関する知識や災害発生時の行動を学ぶための視察研修をしました。

「そなえーる」は、災害を【学ぶ・体験する・備える】をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができます。また防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設としても活用していました。

近年国内においては昨年4月の熊本地震をはじめ6月の内浦湾地震、10月の鳥取中部地震と震度6を超え

る地震が頻発するとともに北海道にも大きな災害をもたらした台風10号等大規模災害が続いています。

千歳市は興部町と同じように、他の市町村に比べて災害の少ない町ですが過去には暴風雪、大雨による自然災害の発生もありました。災害の起こらない街は無いと考え、私たちはいつ起こるかかわからない災害と隣り合わせで暮らしているという意識を常に持ち、

万が一の事態に備えておく必要があるとあらためて、学習してきました。またひとたび大規模な災害が発生したとき被害の拡大を防ぐため国、道、町の対応「公助」だけでは限界があること、このため自分の身は自分で守る「自助」と、地



委員 竹内 清

域、近隣の人が集まり協力し取り組む「共助」が必要であること、この「自助」「共助」「公助」が密接につながる重要性を学び、今後興部町防災計画にもこの経験を生かし発言、提案をするとともに町内の防災力を高めていきたいと感じました。

## 栗山町立北海道介護福祉学校 行政視察報告

私共の委員会では、最近福祉施設の運営上重要な課題となってきた「施設はあるが介護スタッフを確保できないために受け入れができない。つまり施設の機能を十分に活用できていない」問題について調査・研修する目的で栗山町の北海道介護福祉学校を視察した。

同校は、昭和63年4月開設され全国唯一の町立の養成校である。就業年数は2年間で、介護福祉士の国家試験の受験資格、レクリエーションインストラクターの資格が取得できる。定員は80名だが今年41名が入学、昨年は42名。ちなみに道内の養成校20校の定員1千114人に対し入学者は45%。その背景にあるのは介護の仕事は「きつい割には給与が安い」等のいわゆる3K職場という負のイメージがある事によるが、し

かし平均月収のデータには無資格者や正職員以外にも含まれており、介護福祉士の資格を有し正職員になることで克服できる。介護福祉士は全国で38万人位の不足、道内でも1万2千人位の不足が予想されている。従って給与等の待遇もよく就学資金も充実しており、国が9割、道が1割負担で月5万円の貸付制度があり半数位の在校生が利用、更に全道54の福祉施設、自治体が貸付を行っている。特に滝上町、様似町では2年間で175万円の授業料、更に町から月5万円の計295万円の貸付が受けられる。何れも5年間の勤務で全額返還免除となる制度である。それほど需要があり就職率は100%。ちなみに今春は道内だけでも275の施設から、1千27人の求人があったとのこと。

介護職が3K職場から5

K(きれい、かつこいい、給与が高い、健康になる、感謝される) 職場になるためには、正しい情報提供と小さい頃から興味をもってもらう工夫、有資格者にする、更に地元の生徒に地元で働いてもらう等の取組みが必要であるとのこと。  
尚、興部高校からも入学されるよう要望があった。

(記)総務社会常任委員会  
委員 前田 義雄



# 議員活動報告

## 議会全員協議会

議長 山川 孝義  
8月28日、9月15日協議会を開催し理事者及び所管課から説明を受け、質疑を行った。

- 8月28日
  - 特別支援教育事業に係る支援員の配置について
  - 新興部中学校「校歌」の寄贈報告について

○新興部中学校校舎改築事業に係る工事費の増額について

- 平成29年度「興部町防災訓練」の概要について
- 消防署興部支署職員の退職に係る補充採用について
- 興部町バイオマスプラントにおける「騒音対策」の対応について
- 国保病院常勤医師の招聘について

## 平成28年度各会計歳入歳出決算認定

平成28年度興部町各会計決算認定は、議員全員による決算審査特別委員会が設置され、委員長に阿部昭一委員、副委員長に佐藤吉春委員を選出した。同委員会は、9月13日から15日までの三日間にわたり全体会議方式で詳細に審査を行い、採決の結果、原案どおり認定した。

## 編集後記

9月15日  
○紋別市幼児療育センターの移転改築について

## 議会運営委員会

委員長 佐藤 吉春  
9月8、14日委員会を開催し次の事項について審議した。

- 9月8日
  - 平成29年度第3回議会定例会について
- 9月14日
  - 平成29年度第3回議会定例会について

2017年10月早いもので今年も紅葉の時期が参りました。そして、寒い日々が続ぎ、初霜・初雪・初積雪・根雪と冬の始まりです。

そろそろ、いつタイヤを交換するかと考えている方もいることと思います。冬になるといろいろな種類の路面が目まぐるしく登場します。乾燥路面、濡れているだけの路面(凍っていない)、新雪が積もったばかりの路面、シャーベツ

ト状の路面、わだちの路面、圧雪状態の路面、凍った路面と大別することができません。運転される皆さんは、何種類もの路面とお付き合いしなければなりません。それぞれの路面にどう対応すればよいか、経験で知っていることと思います。しかし、路面に慣れるまでの間、最初が大事です。急ブレーキ、急ハンドル、急発進、急加速、これからの冬道、交通事故の多い時期でもあります。交通安全に充分注意をし安全な運転を心がけたいものです。

(記)広報特別委員会

委員 阿部 昭一

- 広報委員長 藤渡 昭博
- 委員 阿部 昭一
- 委員 佐藤 吉春
- 委員 竹内 清
- 議会事務局長 日下 学
- 議会事務局主査 八木 実央